

「第 11 回日中韓3か国地方政府交流シンポジウム」報告

本シンポジウムは、歴史的、地理的に密接な関係にある日本、中国及び韓国3か国の地方政府間の国際交流・協力をより一層促進することを目的として、1999年 から3か国持ち回り制で毎年開催されています。本年は、8月5日(水)及び6日(木)の2日間、吉林省長春市において、中国国際友好城市連合会及び長春市市人民政府の主催により開催されました。

今回のシンポジウムは、「地方政府の交流と協力を強化し、北東アジア地域の共同発展を促進」をメインテーマとして開催され、日本から37名、中国から151名、そして韓国から74名と、3か国全体で262名が参加しました。

初日の開会式では、主催者である長春市人民政府の崔傑市長の司会のもと、吉林省人民政府の韓長賦省長と中国国際友好城市連合会の陳昊蘇会長の開会挨拶があり、本シンポジウムを開催する意義を述べるとともに、参加者に対する歓迎の意が示されました。続いて当協会の香山理事長から、開催に際して感謝の意を表するとともに「本シンポジウムはこれまでも国際交流に大いに貢献してきた。今回も実り多きものとなるよう確信している。」との挨拶がありました。

翌日の基調講演では、「21世紀の北東アジア都市交流協力ネットワークを共に構築」と題して、清華大学国際問題研究所の劉江永教授が、「北東アジアの共同発展を促進するには、日中韓3か国の地方政府及び都市間の交流と協力が必要であり、あらゆる分野において交流協力ネットワークを構築することが必要である。」と述べるとともに、過去の戦争にも触れ、ネットワーク構築にとって国の政治的背景が障害になっており、これを打破するためにも地域間交流と都市間協力が必要であると、国際交流の重要性を述べられました。

基調講演に引き続き、各国代表の主旨発表と代表発表が行われ、主旨発表では、メインテーマに基づき、日本からは長崎県の藤井健副知事、中国からは長春市の崔市長、韓国からは蔚山市の朴孟雨市長が、地方政府の交流と協力による北東アジアの共同発展の促進について発表され、代表発表では、サブテーマに基づき、日本からは札幌市の小澤正明副市長、中国からはハルビン市の張効廉市長、韓国からは大田市儒城区の陳東圭区長が省エネや環境保護協力による共同発展や青少年交流について発表されました。

午後からはサブテーマに基づき、3か国の代表による事例発表が行われました。日本からは雲仙市観光物産まちづくり推進本部の中山孝部長、仙台市環境局の坪田忠宏局長、金ヶ崎町の高橋由一町長、中国からは三亜市の王勇市長、南寧市の藩和鈞副市長、北京市外務局の田雁副主任、韓国からは慶尚南道南海岸経済室の安承澤室長、大邱市東区の李在晩区長、水原市環境事務所の李相浩所長が、青少年交流、省エネ・環境保全協力、金融危機のもとでの地方政府間協力を通じたそれぞれの日中韓交流について、地方政府間の交流や歴史および現在取り組んでいる政策などについて発表を行いました。

その後、自由討論が行われ、参加者からの質問の後、青少年交流について討論されました。参加者からの質問では、金ヶ崎町の実例発表の内容に対してごみ分別の方法やコスト面に関する質問があり、高橋町長から、燃え

るものと燃えないもの、利用できるものと利用できないものという風にわかりやすく分別したことが成功につながったこと、ごみの排出量を削減することによりコストも抑えることができたこと、また町民と企業对环境に対する意識向上と協力によりそれが実現できたことを説明されました。

青少年交流については、北京市の田副主任から、相手国の歴史や文化を理解することが重要であり、短時間の交流では成果が得られにくいいため、趣向を凝らした大型の交流ができれば更に大きな成果が得られるのでは、と日中韓3か国の夏のキャンプ開催の提案があり、大邱市東区の李区長からも現在行っている交流のホームステイの期間を長くすれば効果的であり専門の施設が欲しい旨の発言がありました。また、過去の歴史にこだわらない青少年育成を行い、観光を通じて相手国の歴史文化を理解させ、3か国の交流を推進していきたいと思っており、将来彼らは北東アジアをけん引する力となるであろう、との発言がありました。さらに、日本からは、札幌市の小澤副市長が、日本の子供100人と海外の子供100人で子供サミットを開催し日本の環境大臣に報告書を提出した事例に挙げ、将来を担う子供たちのまちづくりへの関わり的重要性とそれが子供たちの人生観を変えるものとなり得ることを述べ、まちづくりなどテーマを決めた交流が必要であると述べられました。

いずれも2国間の交流のみに留まらず、3か国間の交流を推進したものであり、子供たちの交流が子供たちを通して、家庭へと持ち帰ることにより情報発信源となり国際交流の推進につながる可能性と、その子供たちの成長に伴う友好交流の将来性に期待をかけた討論会となりました。

閉会式では、長春市共産党委員会常務委員である随忠誠・常務副市長から閉会の挨拶があり、来年の開催地である長崎県の藤井副知事から長崎県の古くから異国との文化交流があった歴史や、豊かな自然、名所旧跡、祭り、グルメについて紹介がありました。最後には東北地方ならではの文芸演出も鑑賞し、大会は成功裏に閉幕いたしました。

来年の本シンポジウムは、長崎県で開催される予定となっております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



開会式の様子



自由討論会の様子